

キリスト が すべて です
2023 秋 (9 月、10 月、11 月)

「寄るべのない者の叫びに 耳を閉じる者は、自分が呼ぶときに 答えられない。」箴言 21:13

7 月下旬、軽井沢町のレスキュー・ミッション近くの通りで、私は自分の持ち物をカートに積んだ日本人のホームレス男性(S 氏)に声をかけられました。彼は空腹だと言いました。私は彼に食事代になるお金を渡し、キリストのことを話しました。すると彼はすぐに、自分はクリスチャンだと告白しました。

約 1 週間後、私は再び彼に出会いました。今度は、私の友人である日本人クリスチャンの男性と話しているところでした。S 氏は、その友人にも「お腹が空いた」と言って声をかけていました。そこで私は、レスキュー・ミッションの正面に座り、伝道者の書に基づく私の祈りの書『空の空』を、毎日 3 時間、時給は低いものの声に出して読む仕事を彼に頼みました。その賃金で、彼は毎日の食事を賄うことができるからです。

彼はすぐに同意しました。8 月初めの最初の日、彼はレスキュー・ミッションに入り、通行人や中にいる人たちに向けて朗読しました。しかし彼には強いタバコの臭いがあり、小さな店舗内にその臭いが充満しました。彼が喫煙者かどうか、私は事前に考えていませんでした。仕事を頼んだとき、私は彼に、昼間は私の車に荷物を置き、夜はそこで眠ってもよいと伝えていました。私の車は寝泊まりできるコンパクトなバンです。ただし、車内で喫煙しないことは、はっきりと伝えました。彼が 5 晩車で寝た後、私が用事で車を使ったところ、彼は夜の間に蚊取り線香を焚いていました。その煙の臭いは非常に強いものでした。そこで私は、車内で何かを燃やすことをきっぱりと禁じました。彼はそれを守る

と約束しました。

彼がホームレスである必要はありません。彼は低賃金の仕事でもフルタイムで働き、この地域で最も安い公営住宅に住み、光熱費を払い、食料を買うことができます。しかし彼は「自由」に生きることを好み、公の場で人に声をかけ、「お腹が空いた」と言う生活を選んでいきます。私が彼にお金を支払ったのは、まず第一に、彼の魂にとって益となる、重みと力のある祈りを学ばせるためでした。最初の日朗読した後、彼は「この祈りは自分を高めてくれる」と言いました。S 氏が正しく生きることができるよう祈ってください。もしそうするなら、彼は自分自身で生計を立てることができるのです。通行人すべてに「お腹が空いている」と言い、与えられたお金の一部を命を害するタバコに使うのは間違っています。

8 月中、私は週に 5 日ほど、1 日 2～3 時間彼を雇い、彼についての導きを熱心に祈りました。そして 8 月半ばを過ぎた頃、8 月末で彼を「雇う」のをやめると伝えました。それは、彼が自分で生計を立てるための準備をするのに十分な時間を与えるためでした。彼には成人した息子と娘がいます。彼らに家庭があるのかどうかは知りません。妻に何が起きたのかも知りません。私は彼の私生活について多くは尋ねません。ただ年齢だけは聞きました。74 歳です。彼には、定住して働くことを望まない放浪者の気質があります。主が彼を完全に救ってくださるよう祈ってください。また、私がキリストが望まれる通りに彼を扱うことができるよう祈ってください。私や、S 氏のような周囲の魂を気にかけてくださることを、神が祝福してくださいますように。

**「善と悪とを見分けるために、感覚が訓練されている」
(ヘブル人への手紙 5 章 14 節)**

物乞いで喫煙者の S 氏を助ける中で、私は彼の中にある善と悪を見分けるため、聖霊によって自分の靈的感覚を鍛えようと努めてきました。

「働こうとしない者は、食べてはならない」

(テサロニケ第二 3 章 10 節)

私はこの御言葉を彼に伝え、彼は喜んで、時給を得て私の祈りの書を公の場で朗読しました。しかし何度か、彼がベンチに座ってタバコを吸っているところを見かけました。そこで 8 月の終わり頃、私は、8 月末以降は祈りを読む対価として金銭(マモン)を支払うのではなく、食べ物を与える形にすると伝えました。彼はその条件にはまったく興味を示さず、やがて私のもとへ来なくなりました。このような魂に対して、正しい靈的判断力を行使できるよう、どうか祈ってください。

今年の夏、太陽は世界中の人々を焼き尽くすほどでした(黙示録 16 章 9 節)。日本でも激しい暑さにより、老若男女を問わず、複数の人が亡くなりました。13 歳の日本人少女が、学校での激しい運動後、自転車で帰宅中に倒れ、1 時間ほどで亡くなりました。悲劇です。

私は日中、太陽が照りつける時間帯は、レスキュー・ミッションの店内に留まるようにしていました。正面の扉は開けていたので、通りを歩く人々は、私が中で賛美歌を歌っているのを聞くことができました。毎日の閉店後、雨が降っていなければ、涼しい夕暮れや夜に散歩をしました。9 月には、日本では「かつて経験したことのない」深刻な洪水が大きなニュースになりました。

人々が集まり、心に益のない話題しかないとき、天気はよく

会話の話題になります。そして天候が悪いほど、虚しい魂はそれについて大声で不平を言いますが、何も変えることはできません。今年の夏、多くの日本人が暑さについて私に話しかけてきました。それは私にとって良いきっかけでした。私はこう答えました。

「これほど暑いと、聖書、特に終末に太陽が人々を焼くという預言を信じるのは簡単ですね。だからこそ、すべての人が創造主なる神に悔い改め、救い主イエス・キリストを信じて、永遠の救いを受けるべきなのです。」

このような益のある言葉が彼らの耳に入ると、彼らは即座に私との会話に興味を失い、たいていすぐに立ち去っていきました。

9月29日になって、ようやく気温は快適な範囲に下がり、おそらく春まで暑くならない状態になりました。そこで私は、心地よい秋の雰囲気の中で住宅地を歩き、各家庭のドアに福音の印刷物を配り始めました。10月は、この福音伝道に力を注ぎました。私が訪れた家庭の救いのために、どうか執り成して祈ってください。

毎年の予定に従い、11月4日(土)の夜、私は涼しい軽井沢町でレスキュー・ミッションを閉じました。私がその混雑した通りで、命の言葉を掲げていた6か月の間、多くの失われた魂がその前を通り過ぎました。どうか私と共に、聖霊が彼らに強く働きかけ、自分たちの滅びた状態と、全能の神の激しい御怒りを悟らせてくださるよう祈ってください。

「主よ、多くの魂を救ってください！」

私は、年の半分を通して、多くの失われた魂に「説教」できる理想的な場所を神が与えてくださったことを、心から感謝しています。軽井沢の店舗を閉じた後、11月は屋外での伝道を多く

行い、公の場で声を高く上げて説教し、また多く歩きながら各家庭に福音の印刷物を配りました。神は、暖かく晴れた秋の日々を数多く与えてくださいました。私はその秋の美しさを味わいながら、1 日およそ 7 マイル(約 11km)歩きました。それは健康的な運動であり、ストレスを和らげ、魂に平安をもたらしつつ、多くの魂に良き知らせを届けるものです。

キリストのしもべ、 サム・ヤービー